

AICHI STEEL

環境に一番やさしい鉄屋へ

AICHI STEEL REPORT 2026

愛知製鋼統合レポート2026



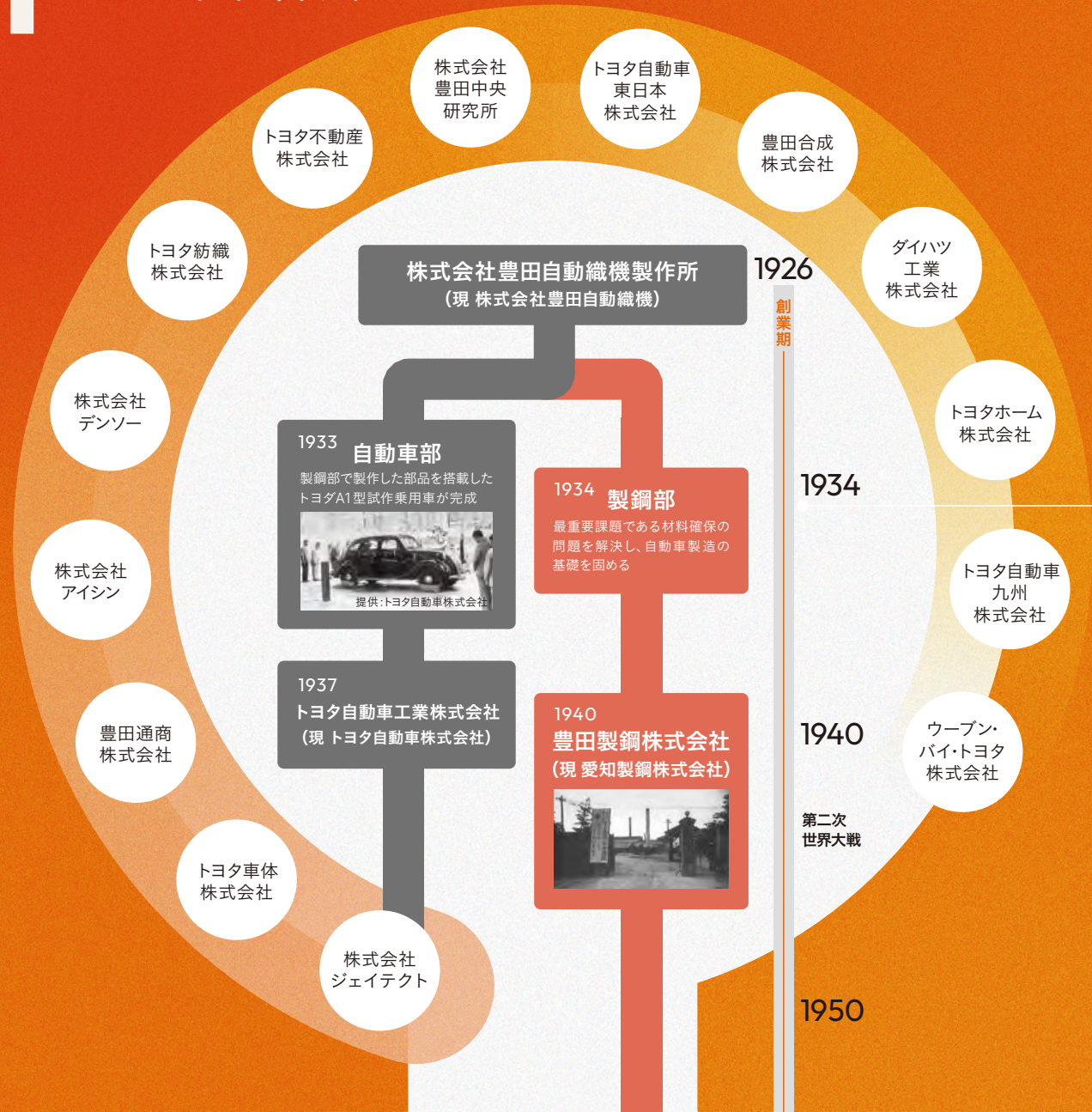
CHAPTER

1

INTRODUCTION

イントロダクション

挑戦が鍛えた
“素材の力”



愛知製鋼は創業以来、
社会課題と向き合い、
素材でモノづくりの
可能性を広げることで
社会に貢献してきました。
培ってきた技術や技能で
つくり上げた素材や部品で、
持続可能な社会の実現に向け、
未来へ挑戦し続けます。

1934
自動車づくりに適した
鋼づくりを
私たちの原点として

豊田自動織機製作所内に
製鋼部門設置



「よきクルマは、よきハガネから。」の
想いのもと、自動車産業に不可欠な
高品質・量産対応可能な特殊鋼の
製造を開始

1964
国内自動車産業の
発展期を支えて

鍛鋼一貫体制の開始



モータリゼーションの進展に対応し、
特殊鋼から鍛造品まで一貫して開発・
生産できる体制を構築

2010-
さまざまな社会課題への
対応に向けて

幅広い事業分野の開拓



モビリティを中心に医療・食料など幅
広い事業分野を開拓し社会課題の
解決に貢献

1992
素材技術の新たな
可能性を広げて

新たな価値創出のため
新規事業へ参入



素材技術を進化させ、新事業として電
動車や自動運転技術の基盤を確立

ステンレス鋼の生産開始

鍛造品の生産開始

電子・磁性部品の生産開始

特殊鋼

スマート
カンパニー

鍛カンパニー

ステンレス
カンパニー

鋼カンパニー

1960

高度経済
成長期

成長期

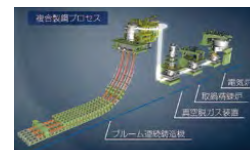
1970

オイルショック

1980

1982
環境への高まる要請に
先駆けて

世界初の
「複合製鋼プロセス」を導入



省エネ機運の高まりを受け、最先端
技術による革新的な製鋼プロセスを
世界に先駆けて実現

2000-
資源循環型の
モノづくりを
追求して

サーキュラーエコノミーの
先駆けとなる活動を開始



廃自動車のリサイクル技術やスラグ再
利用を実用化し、資源の有効活用を
追求

1990

バブル崩壊

2000

リーマンショック

2010

パリ協定

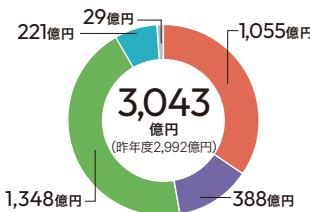
新型コロナ
ウイルスの
感染拡大

2020

2026

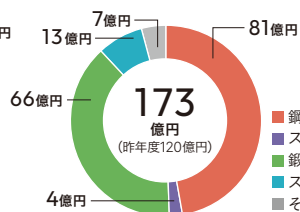
DNAを深化(モノづくりの可能性を広げる)

カンパニー別売上収益



表示単位未満切り捨てのため、合計と総額が一致しない場合があります

カンパニー別営業利益

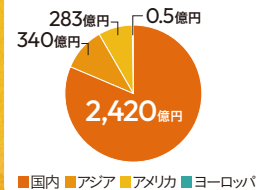


連結子会社数

8カ国
17社

(海外事務所2カ国2事業所)

地域別売上収益



ROE

4.8%

(昨年度3.2%)

自己資本比率

59%

(昨年度58%)

配当性向

85.0%

(昨年度40.2%)

従業員数

単独

2,525人

(昨年度2,578人)

連結

4,427人

(昨年度4,522人)

環境に一番やさしい鉄屋へ

自然環境の保全や再興に貢献

再生可能エネルギーを活用したモノづくりを推進するとともに、鉄の力で環境に貢献する製品を提供しています。

社会・暮らしの安全・安心に貢献

モビリティを中心にインフラ・医療機器など、人々の暮らしを支える製品を社会に提供しています。

AICHI STEEL

サーキュラーな モノづくり

従業員の幸せと社会の発展

1934年の創業以来、働く仲間一人ひとりが主役として
価値ある会社人生を追求できる
「人を大切にする経営」を実践しています。
人間力を育み技を磨き、会社とともに成長する
一流のプロ集団を目指しています。



鍛造



圧延



加工



製鋼



鉄スクラップ

再生可能
エネルギー

環境配慮型製品
CO₂排出量削減

製品の提供

廃車などの
鉄スクラップ

CO₂排出量(エネルギー起源)

単独

566千t

(昨年度 595千t)

連結

652千t

(昨年度 684千t)

副産物リサイクル率

98.8%

(昨年度 98.6%)

社会で活躍する愛知製鋼の製品たち

基幹事業である自動車用の特殊鋼と鍛造部品から、その技術とモノづくり力を活かしたインフラ材料や電子部品・機能材料、そして医療や農業の分野でも活躍する幅広い製品を展開しています。資源循環による環境にやさしいモノづくりで暮らしの安全・安心に貢献しています。



医療機器

● 歯科用磁性アタッチメント など

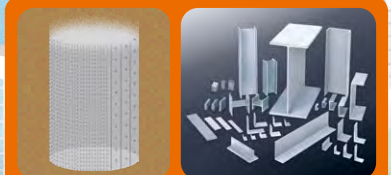
建設機械用材料



建築・インフラ材料

● 建築構造用ステンレス鋼 など

建築用材料



ハイパーカムカンデ

● ステンレス鋼構造物 など



農業用鉄供給材

土木・インフラ材料

船舶用材料

自動車用特殊鋼・鍛造品



自動運転・電動車対応

● 磁気マーカシステム「GMPS®」(自動運転支援)
● e-Axle 部品 など



自動車鍛造品(特殊鋼使用)

● エンジン部品
● トランスミッション部品 など

経営理念

国際的視野に立ち、活力に溢れ、信頼される企業体質をもとに、魅力ある商品を提供することによって社会に貢献する。

- 1 研究と創造につとめ、常に時流に先んずる。
- 2 相互の信頼と理解のもとに、一致協力する。
- 3 責任ある判断と行動のもとに、常に最善を尽くす。

ブランドスローガンは、
「素材を原点に、付加価値を与えて
部品やシステムに進化させ、
モノづくりの可能性を広げる会社」
になる意志を社会に対して表明。
ブランドスローガンのロゴの
オレンジ色のドットは、
「素材で未来の中心を支える」
当社の姿を象徴的に表しています。



ブランドサイト



経営理念

ミッション

よき社会は、よき素材から。

2030年ビジョン

Company of Choice Globally

Aichi Way

愛知製鋼グループ企業行動指針

労使協調宣言

株主・
投資家

取引先

お客さま

従業員

地球・
社会

< ブランドスローガン >

つくろう、未来を。
つくろう、素材で。

愛知製鋼は1934年、国産大衆車の生産に必要な高品質な鋼材を自らの手で生み出すという強い決意から始まりました。

創業者・豊田喜一郎が掲げた「よきクルマは、よきハガネから。」という言葉には、モノづくりへの誇りと、社会に貢献するという高い志が込められています。この精神は、時代を経て「よき社会は、よき素材から。」という現在のミッションへと進化し、常に私たちの事業活動と共にあります。

当社の経営理念は、トヨタグループの精神的な礎である「豊田綱領」を受け継ぎながら、日々の業務において、先を見据えた発想と柔軟な対応力を大切にしていくことを表しています。互いを尊重し、協力し合う風土のもとに最善の判断と行動を追求しています。こうした姿勢は、創業以来受け継がれてきた挑戦と創造のDNAに支えられています。

現在、私たちは2030年ビジョンとして「世界中で選ばれる会社(Company of Choice Globally)」を掲げ、グローバルな視点で素材の可能性を広げることに取り組んでいます。技術革新や社会課題への対応が求められるなかで、素材の力を最大限に引き出し、持続可能な未来の実現に貢献することを目指しています。

編集方針

本報告書は、愛知製鋼グループの2030年ビジョンの実現に向けた経営戦略と、それを支えるサステナビリティの取り組みを統合的に示します。短期的な成果にとどまらず、中長期の視点で価値創造の道筋を描き、戦略の方向性や進捗、競争優位の源泉となる強み、ならびに人的資本やガバナンスなどの基盤にも焦点を当て、財務・非財務の両面から企業の実行力を示します。併せて、社会課題の解決と企業価値向上の両立に向けた姿勢を明確にします。

対象読者

本報告書は、株主・投資家の皆様、お客様、お取引先様、そして従業員・関係会社の皆様を主な読者として想定しています。

会計基準

財務データは国際財務報告基準(IFRS)に準拠しています。

期間・範囲

本報告書は、主に2025年度(2025年4月～2026年3月)における愛知製鋼グループの活動を対象としていますが、必要に応じて一部対象期間外の内容も紹介しています。

参照したガイドライン

- ・ GRIスタンダード
- ・ 国際統合報告フレームワーク(IIRC)
- ・ ISO 26000 (社会的責任に関する手引き)

見通しに関する記述についての注意事項

本報告書のうち業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づくものであり、内在する不確定性および今後の事業運営や内外の情報変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。

報告書/レポート体系



企業Webサイト <https://www.aichi-steel.co.jp/>

INDEX

CHAPTER 1

イントロダクション

- 01 挑戦が鍛えた”素材の力”
- 04 社会で活躍する
愛知製鋼の製品たち
- 05 経営理念・ブランドスローガン
- 06 編集方針・INDEX

CHAPTER 2

未来へのコミットメント

- 07 トップメッセージ
- 12 財務・資本戦略

CHAPTER 3

価値創造ストーリー

- 15 価値創造モデル
- 16 愛知製鋼が社会に与えるインパクト
- 特集
- 17 未来社会へのインパクトストーリー
持続可能な地球環境への貢献
- 19 未来社会へのインパクトストーリー
事業の変革で豊かな社会を創造
- 21 未来社会へのインパクトストーリー
従業員の幸せと会社の発展

CHAPTER 4

価値創造の戦略

- 23 2030年ビジョンと
中期経営計画
- 24 経営戦略
- 30 資本戦略
- 31 知的資本戦略
- 34 事業戦略

CHAPTER 5

ESG経営の実践

- 44 ESG経営の取り組み
- 45 マテリアリティの全体像
- 46 環境 (E)
- 51 社会 (S)
- 60 ガバナンス (G)

CHAPTER 6

会社データ

- 71 財務・非財務サマリー
- 73 企業概要